

愛知みずほ大学大学院
2024年度シラバス

健康科学特論

更新日：2024/02/26 11:15:14

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|-----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 前期 | 科目コード | 1A100100 | 授業コード | |
| 担当教員 | 松原 達昭 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0001 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 必修 | | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | |

授業概要

| | | | |
|----|--|--|--|
| 内容 | 健康科学・医学・医療の著しい発展と食・住環境、労働環境など生活環境の改善は、平均余命の著しい延伸をもたらしました。ただし、この間、生活習慣の偏りによる健康障害が増加し、一方では新興感染症の出現によって、疾病構造は大きく変容しました。健康は疾病の対極として捉えるのではなく、健康と疾病は連続したものであり、生活の質を左右する基盤・条件であると考えられるようになっていきます。本授業を学ぶ目的は、健康長寿社会を担う研究者、専門家、職業人等に対して啓発を図ることにあります。 | | |
| 方法 | 著書 "Great Discoveries in Medicine" を用いて、医学・医療における発見、歴史について考察します。院生の相互交流を深めるためにも、自由闊達な授業内容にしていきましょう。 | | |

履修条件

特にありません。

履修する上の留意点

到達目標

| | |
|---|--|
| 1 | 健康科学の進展について関連事項をウェブ等で検索し、情報を交換し、理解を深める力が身につく。また、健康科学について関心を高め、意見交換ができるようになる。修士論文の英文アブストラクトを書ける能力が身につく。 |
|---|--|

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|-----------------|----------|
| 到達目標① | 自主学習力/授業態度/口頭発表 | 35/25/40 |
| 到達目標② | | |
| 到達目標③ | | |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----|-----|----|
| 1 | | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----|-----|----|
| 1 | | | |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

「健」に従事する者にとって、自己研鑽ができる魅力的な授業です。

課題に対するフィードバック

授業における発表内容について講師やクラスメートからの意見を聞き、それについて自分の意見を述べる力が評価されます。質疑応答時間では講師も一員となり参加し意見を述べます。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|----------------------------|-------------------------------|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | 講師から、授業の進行方法についてオリエンテーションを | 受講者は、第3回の授業で取り上げられるstoryを読んで、 | A |

| | | | |
|------|---|--|------|
| | 行う。受講生は、話し合いによって、"Great Discoveries in Medicine"で取りあげられている70の発見のstoriesの中から、自分が担当するstoryと、そのstoryの内容についての発表予定日を決める。各回の授業では1名の院生が発表し、1回の授業で1つのstoryについて学んで行くこととする。 なお、第1回目の授業では、講師が発表の見本を示す予定である。 | 内容を把握しておく。また、storyの内容についてウェブや文献で調べておき、第3回授業での質疑応答に備える。 | |
| 第2回 | 第1回目と同様に、講師が発表の見本を示す予定である。 | 第3回の授業で取りあげられるstoryを読んで、内容を把握しておく。また、storyの内容についてウェブや文献で調べておき、第3回授業での質疑応答に備える。 | A |
| 第3回 | 第3回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第3回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第4回の授業で発表する。 | A, D |
| 第4回 | 第4回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第4回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第5回の授業で発表する。 | A, D |
| 第5回 | 第5回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第5回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第6回の授業で発表する。 | A, D |
| 第6回 | 第6回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第6回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第7回の授業で発表する。 | A, D |
| 第7回 | 第7回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第7回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第8回の授業で発表する。 | A, D |
| 第8回 | 第8回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第8回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第9回の授業で発表する。 | A, D |
| 第9回 | 第9回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第9回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第10回の授業で発表する。 | A, D |
| 第10回 | 第10回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第10回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第11回の授業で発表する。 | A, D |
| 第11回 | 第11回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第11回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第12回の授業で発表する。 | A, D |
| 第12回 | 第12回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第12回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第13回の授業で発表する。 | A, D |
| 第13回 | 第13回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第13回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第14回の授業で発表する。 | A, D |
| 第14回 | 第14回授業の担当学生がstoryの訳と内容を発表する。発表された内容について受講者は意見交換を行う。併せて、疑問点や課題についての検討も行う。 | 第14回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調べる。疑問点やその他意見を第15回の授業で発表する。 | A, D |
| 第15回 | 総まとめ | 研究活動における大切な点について意見交換をする。 | A, D |

研究法特論

更新日：2024/02/26 11:16:31

| | | | | | | | |
|---------------|--|----------------|-------|-------|---------------------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 前期 | 科目コード | 1A100400 | 授業コード | |
| 担当教員 | オムニバス：松原 達昭、今澤 正彦、高瀬 慎二、森 千鶴、山根 基、刑部 純平、長岡 由紀子、木戸 盛年 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0032 | 授業形態 | 講義、演習 | | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 必修 | | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | |

授業概要

| | |
|----|--|
| 内容 | 「健」の領域における研究に関して、研究に必要な事項を学び、研究計画と研究論文作成の基盤とする。 |
| 方法 | 研究方法の種類と概要、研究計画、及び、研究倫理を学ぶ。 また、「養護・保健」「健康スポーツ」「心理・カウンセリング」「医療全般」についてそれぞれの特徴を探究する。 |

履修条件

特にありません。

履修する上の留意点

到達目標

| | |
|---|---------------------------------|
| 1 | 研究する上で遵守すべき倫理事項を述べることができる。 |
| 2 | 研究目的に合った研究論文を検索することができる。 |
| 3 | 「養護・保健」に関する研究の目的と意義が説明できる。 |
| 4 | 「健康スポーツ」に関する研究の目的と意義が説明できる。 |
| 5 | 「心理・カウンセリング」に関する研究の目的と意義が説明できる。 |
| 6 | 「医療」に関する研究の目的と意義が説明できる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|--------------------------|----|
| 到達目標① | 自主学習力/プレゼンテーション/ディスカッション | 15 |
| 到達目標② | 自主学習力/プレゼンテーション/ディスカッション | 15 |
| 到達目標③ | 自主学習力/プレゼンテーション/ディスカッション | 10 |
| 到達目標④ | 自主学習力/プレゼンテーション/ディスカッション | 20 |
| 到達目標⑤ | 自主学習力/プレゼンテーション/ディスカッション | 20 |
| 到達目標⑥ | 自主学習力/プレゼンテーション/ディスカッション | 20 |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----|-----|----|
| 1 | | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----|-----|----|
| 1 | | | |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

各自が思い描いている研究テーマに磨きをかけ、内容を充実させ、完成させるための基盤となる授業です。
講師とともに学びましょう。

課題に対するフィードバック

それぞれの授業内でコメントする。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|------|----------------|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| | | | |

| | | | |
|------|--|---|------|
| 第1回 | オリエンテーション 「健」に関わる領域における研究の意義、研究方法の種類と特徴、研究方法選択の際の留意点 (松原 達昭) | 健康について自身の考え方を認識しまとめておく。 | A |
| 第2回 | 研究活動における倫理と不正防止 (松原 達昭) | 研究活動における倫理と不正防止について調べ、研究者としての在り方を考えておく。 | A |
| 第3回 | 研究活動における倫理と不正防止 (松原 達昭) | 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」、及び、愛知みずほ大学・愛知みずほ短期大学研究倫理規程に目を通しておく。 | A, D |
| 第4回 | 文献検索について①（重要性と検索方法） (高瀬慎二) | 予習：自身の研究テーマに関連するキーワードをまとめておく。 復習：自身の研究テーマに関連する先行研究を調査しておく。 | D |
| 第5回 | 文献検索について②（文献の引用方法） (高瀬慎二) | 予習：自身の研究テーマに関連する先行研究をまとめておく。 復習：関連する学術分野の様式にならって文献引用の体裁を整える。 | D |
| 第6回 | 養護・保健に関する研究について (森 千鶴) | 予習：自身の研究テーマに関連する先行研究を調べてまとめておく。 復習：学修した内容について振り返り、まとめる。 | A, B |
| 第7回 | スポーツ現場に活用される研究について (山根 基・刑部 純平) | 予習：スポーツ科学（運動生理学など）に関する知識を事前に調べる。 復習：スポーツ現場に活用される研究例について調べ、まとめる。 | A, B |
| 第8回 | 健康づくりのための運動に関する研究について (山根 基・刑部 純平) | 予習：健康づくりのための運動の効果に関する知識を事前に調べる。 復習：健康づくりのための運動に関する研究例について調べ、まとめる。 | A, B |
| 第9回 | 心理学関連領域の研究の特徴 (長岡 由紀子) | 予習：事前に配布した資料を読み、心理領域で関心のある分野について記述してくること。 復習：本日の内容のポイントを400字でまとめること。 | A, B |
| 第10回 | 心理調査法研究について ・質問紙調査法とは ・質問紙調査法に用いる統計 (木戸 盛年) | 予習：自分の研究テーマに関係する調査票（アンケート用紙）を用いた研究論文（少なくとも1本）を探してきて、方法の内容をまとめてくる。 | A |
| 第11回 | インタビュー調査、事例研究について (長岡 由紀子) | 予習：会話の記録を取っておくこと。 復習：本日の内容のポイントを400字でまとめること。 | A |
| 第12回 | 医療にかかわる研究について ① (松原 達昭・今澤 正彦) | 受講者の目指す研究テーマに隣接する医学関連論文について事前に調べ、当日受講者、講師間で議論を行う。 | A |
| 第13回 | 医療にかかわる研究について ② (松原 達昭・今澤 正彦) | 受講者の目指す研究テーマに隣接する医学関連論文について事前に調べ、当日受講者、講師間で議論を行う。 | A |
| 第14回 | 医療にかかわる研究について ③ (松原 達昭・今澤 正彦) | 受講者の目指す研究テーマに隣接する医学関連論文について事前に調べ、当日受講者、講師間で議論を行う。 | A |
| 第15回 | まとめ (松原 達昭) | 各自の研究における現時点での進捗状況についてプレゼンテーションを行い、受講者、講師間で議論する。 | A, D |

社会調査法特論

更新日：2024/03/12 10:35:03

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|-----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 後期 | 科目コード | 1A100500 | 授業コード | |
| 担当教員 | 高瀬 慎二 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0033 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 必修 | | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | |

授業概要

| | |
|----|---|
| 内容 | 本授業では、社会調査の意義、背景と方法に関わる基本的知識を学ぶ。講義の前半では模擬的な調査を実施し、後半では実際に受講生が研究計画を立て、調査の実施、結果の分析・解釈、調査結果の報告を行う。 |
| 方法 | 講義はスライドや配布資料を用いて行う。 |

履修条件

特になし

履修する上の留意点

到達目標

| | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 調査研究の基本的な手続きを理解し、実施することができる。 |
| 2 | データ解析の基礎について理解し、分析を実施できる。 |
| 3 | 調査結果を言葉、図表を用いて発表し、説明することができる。 |
| 4 | 調査結果に基づきレポートを作成できる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|--------------------|----|
| 到達目標① | 受講態度、口頭発表、レポート、成果物 | 25 |
| 到達目標② | 受講態度、口頭発表、レポート、成果物 | 25 |
| 到達目標③ | 受講態度、口頭発表、レポート、成果物 | 25 |
| 到達目標④ | 受講態度、口頭発表、レポート、成果物 | 25 |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|--------------|-----|----|
| 1 | 適宜に講義資料を配布する | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----------|---------|----------------------|
| 1 | はじめての社会調査 | 世界思想社 | 三井さよ・三谷はるよ・西川知亨・工藤保則 |
| 2 | 社会調査法入門 | 有斐閣ブックス | 盛山和夫 |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

授業中に適宜に行う

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|---------|-------------------------------|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | 社会調査の目的 | 予習：シラバスを確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |

| | | | |
|------|--------------------------|-------------------------------|---|
| 第2回 | 社会調査の意義 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第3回 | 量的調査と質的調査 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第4回 | 二次分析の基礎 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第5回 | 観察調査の手法 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第6回 | 観察調査の分析方法 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第7回 | 質問紙調査の手法 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第8回 | 質問紙調査の分析方法 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第9回 | 質問紙、尺度の構成と研究倫理と倫理的配慮 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第10回 | 調査の実施① 問題の設定 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第11回 | 調査の実施② 仮説の構築と調査方法の決定 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第12回 | 調査の実施③ 実査 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第13回 | 調査の実施④ データの分析、結果の解釈 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第14回 | 調査の実施⑤ 結果報告書（レポート）の作成 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |
| 第15回 | 調査結果の発表 | 予習：配布資料を確認する 復習：講義の課題に取り組む | B |

健康管理学特論

更新日：2024/02/26 11:12:54

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 後期 | 科目コード | 1B100110 | 授業コード | |
| 担当教員 | 松原 達昭 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0035 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | |

授業概要

| | |
|----|--|
| 内容 | 疾病の知識・病態を理解する基礎となる科目として、疾病の成り立ちを理解し、重要な疾患の病変・病態、治療、並びに予防について学びます。 |
| 方法 | 疾病の成り立ちを理解し、如何なる治療法や予防法があるのかを調べ、考えてください。 疾病の実例の示説を通して疾病の理解と考察能力を身につけ、健康管理や、福祉に携わる専門家等、健康社会に貢献する人々の素養の一部となることを期待します。 |

履修条件

特にありません。

履修する上の留意点

到達目標

| | |
|---|--|
| 1 | 病気の成り立ち、疾病の分類、要因についての理解。 |
| 2 | 生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症）等の徴候、治療、予防等についての理解。 |
| 3 | 遺伝子、遺伝性疾患についての理解。 |
| 4 | メンタルヘルスについての理解。 |
| 5 | 感染症、腫瘍の発症機序、病態、治療、予防等についての理解。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|-------------------|----|
| 到達目標① | 討論の質（内容、理解度、参加態度） | 10 |
| 到達目標② | 討論の質（内容、理解度、参加態度） | 40 |
| 到達目標③ | 討論の質（内容、理解度、参加態度） | 10 |
| 到達目標④ | 討論の質（内容、理解度、参加態度） | 10 |
| 到達目標⑤ | 討論の質（内容、理解度、参加態度） | 30 |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----|-----|----|
| 1 | | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----|-----|----|
| 1 | | | |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

本授業を通して、各自の研究課題を掘り下げてください。

課題に対するフィードバック

質疑応答時間を設定し、学生が主体となり講師も参加して対話的に学び、討論することとします。
 疾病や異常状態と日常生活や社会との関連性についても考え、健康管理の基礎知識や実践の重要性の理解に努めます。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|------|----------------|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| | | | |

| | | | |
|------|--|---|------|
| 第1回 | オリエンテーション ＊学生の自己紹介と「研究主題」についての説明 | 各自の研究課題についてクラスで発表する準備と、授業内容について希望があればまとめてくる。 健康とはどんな状態か、疾病とどのような関係になるのか、考えておくこと。 | A, D |
| 第2回 | 病気の成り立ち 疾病の分類 内因と外因 | 病気の成り立ちについて調べておく。 | A |
| 第3回 | 糖尿病 糖尿病とインスリン 糖尿病の慢性合併症 糖尿病の治療法 | 糖尿病について調べておく。 | A |
| 第4回 | 高血圧 血圧とは 脳心血管病への影響 治療法（降圧薬） | 高血圧について調べておく。 | A |
| 第5回 | 脂質異常症 脂質異常症診断基準 脂質異常症の薬物療法 | 脂質異常症について調べておく。 | A |
| 第6回 | 慢性腎臓病 診断、重症度評価、治療 | 慢性腎臓病について調べておく。 | A |
| 第7回 | 高尿酸血症 分類、痛風関節炎、尿路結石、 治療 | 高尿酸血症について調べておく。 | A |
| 第8回 | 感染と感染症 新興感染症（新型コロナウイルス 感染症など） 感染症に対する防御能（ワクチン など） 感染症に対する予防措置 | 感染症について調べておく。 | A |
| 第9回 | 腫瘍 日本人の死因 悪性腫瘍と良性腫瘍 癌のリスク要因 | 腫瘍について調べておく。 | A |
| 第10回 | 老化 加齢と老化 老化に伴う疾患 | 老化について調べておく。 | A |
| 第11回 | メンタルヘルス 依存症、統合失調症、うつ病、 双極性障害、強迫性障害、PTSD、 パニック障害、摂食障害、 発達障害など | メンタルヘルスについて調べておく。 | A |
| 第12回 | 遺伝 遺伝子 遺伝性疾患 | 遺伝について調べておく。 | A |
| 第13回 | 各自の研究課題についてクラスで発表する。発表内容について、受講者、講師を交えて意見交換を行う。 | これまでに学んだことを参考にして、各自の研究課題を掘り下げる。 | A, D |
| 第14回 | 各自の研究課題についてクラスで発表する。発表内容について、受講者、講師を交えて意見交換を行う。 | これまでに学んだことを参考にして、各自の研究課題を掘り下げる。 | A, D |
| 第15回 | 各自の研究課題についてクラスで発表する。発表内容について、受講者、講師を交えて意見交換を行う。 | これまでに学んだことを参考にして、各自の研究課題を掘り下げる。 | A, D |

公衆衛生学特論

更新日：2024/01/30 15:26:19

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 後期 | 科目コード | 1B100400 | 授業コード | |
| 担当教員 | 今澤 正彦 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0006 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | |

授業概要

| | |
|----|--|
| 内容 | 社会における変化（移民の増加、地球環境の変化、自然災害の増加など）、経済面での変化（経済的な格差の拡大、雇用のオートメーション化など）、個人レベルでの変化（家族の形態の変化、肥満・自殺の増加など）がトレンドとなり、VUCA (volatile, uncertain, complex, ambiguous)な時代に立ち入りつつあります。この先、我々の健康・保健や医療、厚生はどこへどう向かうのか、インターネットの発達で身近になったグローバルな広い視野を通すと、地球規模の情報にも無関心ではられません。この授業を学ぶ目的は、グローバルな視野で「健」を考える習慣を身に付けることにあります。 |
| 方法 | 世界保健機関（World Health Organization : WHO）のほか、アメリカ疾病予防管理センター（Centers for Disease Control and Prevention : CDC）、アメリカ国立衛生研究所（National Institutes of Health : NIH）、欧州疾病予防管理センター（European Centre for Disease Prevention and Control : ECDC）などがウェブ上で公式発信する時事のホットなニュース（英語）を題材に、予め指名された発信者役の受講者と取材者役の受講者とは中心になってニュースの内容を日本語で検討・吟味し合います。他の受講者もニュースの受け手として検討に加わることが期待されます。医学上の補足などを教員が適宜コメントしながら、まとめます。 第1回の授業ではこの講義のオリエンテーションを行うほかは、毎回の授業で、次回の題材（ニュース英文）を指定するとともに担当の受講者（発信者役・取材者役）を決めておき、次回の授業で検討・吟味を行います。 |

履修条件

ジャーナルクラブ形式のグループワークになるので、同時に複数名で受講することが望ましい。

履修する上の留意点

到達目標

| | |
|---|---|
| 1 | 学術論文とは異なり一般社会に向けた内容から英文に抵抗感を覚えずに接することができる。 |
| 2 | 限られた時間で情報を読み解き、単純・機械的な英文和訳ではなく自分の言葉（日本語）で説明できる。 |
| 3 | それぞれの立場から情報を吟味することを通して、広い視野や多様な角度から健康・保健を考えることができる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|----------------|----|
| 到達目標① | 自主学習力・授業態度・発表力 | 30 |
| 到達目標② | 自主学習力・授業態度・発表力 | 30 |
| 到達目標③ | 自主学習力・授業態度・発表力 | 40 |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------|-----|----|
| 1 | 特になし | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------|-----|----|
| 1 | 特になし | | |

オープンな教育リソース

講義の中で逐次紹介します。

学生へのメッセージ

「健」を広い視野や多様な角度から見つめ換える可能性が期待できます。

課題に対するフィードバック

自分の言葉で述べること、答えることのできる理解度が評価されます。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|---|--|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | 教員が、授業の進行方法についてオリエンテーションを行い、第2回の題材とする時事のホットなニュース（英語）を指定する。第2回の発信者役・取材者役を決める。 | 第2回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | |
| 第2回 | 第2回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第2回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第3回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第3回 | 第3回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第3回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第4回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第4回 | 第4回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第4回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第5回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第5回 | 第5回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第5回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第6回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第6回 | 第6回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第6回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第7回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第7回 | 第7回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第7回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第8回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第8回 | 第8回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第8回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第9回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第9回 | 第9回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第9回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第10回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |

| | | | |
|------|--|---|---|
| 第10回 | 第10回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第10回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第11回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第11回 | 第11回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第11回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第12回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第12回 | 第12回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第12回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第13回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第13回 | 第13回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第13回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。第14回に向けて指定されたニュース（英語）を読んで、内容を把握しておく。特に発信者役・取材者役は、関連情報をウェブや文献で調べておく。 | B |
| 第14回 | 第14回の発信者役が予め指定されたニュース（英語）を、調べてきた関連情報も適宜交えながら、日本語で発表・解説する。一方で取材者役が、発信者役の発表・解説内容について、受け手に伝えるために、適宜質問を加えながら検討する。他の受講者もニュースの受け手として是々非々で検討に加わることが望ましい。それまでに見えてきた疑問点などから必要に応じて教員がレポートを課す場合もある。 | 第14回までの授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。 | B |
| 第15回 | 総まとめ | 全体の授業内容について考察し、レポートを課された場合にはその考察内容を記述して、教員に提出する。 | |

運動生理学特論

更新日：2024/01/27 11:15:47

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 後期 | 科目コード | 1B100700 | 授業コード | |
| 担当教員 | 山根 基 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0007 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | |

授業概要

| | |
|----|---|
| 内容 | 健康維持や体力増進のために運動の果たす役割は大きく、その生理を理解することは重要である。ここでは、運動に関係する身体の構造、機能や能力など、身体運動に関わる人体生理について学び、それらについての測定法や研究手法について検討するとともに、健康や体力を具体的にどうとらえるかを模索する。 |
| 方法 | 配布プリントと板書およびパワーポイントを使い授業を行う。また受講生が事前課題をまとめた内容を発表（パワーポイント等）し、討論を行う。 |

履修条件

なし

履修する上の留意点

なし

到達目標

| | |
|---|---|
| 1 | ①運動時の人体の生理機能について学修し、健康や体力を維持・増進するための対策について検討することができる。 |
| 2 | ②測定やその処理、結果の解釈といった過程を学び、科学的かつ理論的な考え方や物事の進め方等を身につけることができる。 |
| 3 | ③健康増進における運動の役割について異なる様々な研究分野から捉えることができる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|-----------|----|
| 到達目標① | レポート | 40 |
| 到達目標② | レポート | 30 |
| 到達目標③ | プレゼンテーション | 30 |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|---------------|-----|----|
| 1 | 特定の教科書は指定しない。 | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------------------------------------|---------------------|------------------|
| 1 | 『イラスト運動生理学』 | 東京教学社 | 朝山正巳・彼末一之・三木健寿編著 |
| 2 | 『医学的研究のデザイン-研究の質を高める疫学的アプローチ- 第3版』 | メディカルサイエンスインターナショナル | 木原雅子・木原正博 |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

運動生理学の専門的な知識修得に関わらず、健康や体力、研究活動等について幅広く意見交換を行えることを期待しています。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートの内容を評価し、フィードバックを行う。

毎回の授業冒頭において、前回授業内容の振り返りを行い、学生の理解度を確認してから次の授業内容を進める。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|------|----------------|-------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニング |
| | | | |

| | | | グの実施方法 |
|------|---|---|--------|
| 第1回 | オリエンテーション | 自分の研究テーマ、内容を簡単にまとめて発表する。 | |
| 第2回 | 健康と体力の関わりについて | 健康と体力の捉え方について自分の考えをまとめて発表する。 | A |
| 第3回 | 骨格筋の働きについて | 骨格筋の働きについて参考書や文献などを読んでまとめて発表する。 | A |
| 第4回 | 筋活動の特徴について | 筋の適応について参考書や文献などを読んでまとめて発表する。 | A |
| 第5回 | 筋活動に伴うエネルギー供給について | 筋活動に伴うエネルギー供給について参考書や文献などを読んでまとめて発表する。 | A |
| 第6回 | 身体活動と栄養（たんぱく質、糖質、脂質）について | 身体活動と栄養（たんぱく質、糖質、脂質）について参考書などを読んでまとめて発表する。 | A |
| 第7回 | 運動と呼吸・循環機能について | 運動と呼吸・循環機能について参考書や文献などを読んでまとめて発表する。 | A |
| 第8回 | 酸素摂取量とエネルギー代謝について | 有酸素運動および無酸素運動の特徴について参考書や文献を読んでまとめて発表する。 | A |
| 第9回 | 研究計画（テーマの設定）について | 研究計画（テーマの設定）について参考資料などを読んでまとめて発表する。 | A |
| 第10回 | 研究計画（対象者の定義とサンプリング）について | 研究計画（対象者の定義とサンプリング）について参考資料などを読んでまとめて発表する。 | A |
| 第11回 | 研究計画（測定方法の定度と真度）について | 研究計画（測定方法の定度と真度）について参考資料などを読んでまとめて発表する。また自らの研究計画についても検討し、計画書をレポートとして提出する。 | A |
| 第12回 | 身体活動量の評価（行動記録法、思い出し法、歩数計法、心拍数法） | 身体活動量の測定課題を事前に行い、提出する。 | A |
| 第13回 | 健康、体力、運動などに関して各自の専門分野に関連したテーマを設定し、文献調査などを基に発表を行う① | 健康、体力、運動などに関するテーマを各自設定し、文献調査などを基に発表資料をまとめる。 | A |
| 第14回 | 健康、体力、運動などに関して各自の専門分野に関連したテーマを設定し、文献調査などを基に発表を行う② | 健康、体力、運動などに関するテーマを各自設定し、文献調査などを基に発表資料をまとめる。 | A |
| 第15回 | まとめ | 各受講者の発表に対して各自の意見などをまとめる。 | A |
| | レポート提出 | 身体活動量の評価に関するレポートを作成し、提出する。 | |

薬理学特論

更新日：2024/01/31 21:13:21

| | | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|---|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 前期 | 科目コード | 1B100810 | 授業コード | | |
| 担当教員 | 近藤 一直 | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | 火曜/6限 | | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0036 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | | |

授業概要

| | |
|----|--|
| 内容 | まず、人における健康状態と病的状態の違いを理解してもらう。そして薬がどのようにして病的状態の改善に役立つのかを学ぶ。また、しばしば薬が有害作用を有すること、そして、その有害作用があるにもかかわらず薬を用いなければならない時とはどのような時なのかを考える。この講義で学ぶことによって、薬や薬を取り巻く社会のいろいろな問題について積極的に考え、意見を持てるようになってもらいたい。 |
| 方法 | 講師はまず基本事項を講義するが、必要に応じて意見の交換やディスカッションを行う。また、薬への興味を持ってもらえるように、人と薬との出会いの歴史についても触れる予定。 |

履修条件

なし

履修する上の留意点

薬理学を学ぶ上では、解剖学や生理学、さらに疾患の病因、病態について積極的に学んでいただく意欲を発揮されることを期待する。

到達目標

| | |
|---|--------------------------------|
| 1 | 100%安全な薬は無いことを説明できる。 |
| 2 | 薬の効果の出方は人によって異なることを説明できる。 |
| 3 | 授業で取り上げた主要疾患の病態と治療薬の作用機序を説明できる |
| 4 | 代表的な薬の有害作用や薬物相互作用を説明できる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|----------------------|----|
| 到達目標① | 授業での態度、自主学習態度および口頭発表 | 25 |
| 到達目標② | 授業での態度、自主学習態度および口頭発表 | 25 |
| 到達目標③ | 授業での態度、自主学習態度および口頭発表 | 25 |
| 到達目標④ | 授業での態度、自主学習態度および口頭発表 | 25 |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|----------------|-----|------------------|
| 1 | シンプル薬理学（改訂第6版） | 南江堂 | 野村隆英・石川直久・梅村和夫 編 |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------------------|-----|------------------|
| 1 | NEW薬理学（改訂第7版） | 南江堂 | 田中千賀子/加藤隆一/成宮周 編 |
| 2 | 薬の基本とはたらきがわかる薬理学 | 羊土社 | 柳田俊彦編 |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

大学院には多職種の社会人が院生として集まる。各人の現場での経験や知識をお互いに積極的に発表してもらうことが教室では貴重な学びとなる。

課題に対するフィードバック

質疑応答、ディスカッション時間を設け、講師も一員となり参加し意見を述べる。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 |
|-----|------|
| | |

| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
|------|---|--|------------------|
| 第1回 | 薬理学概論： 薬物の作用標的分子を中心に、薬物動態および薬力学の概念を理解する。 | 第1回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第2回の授業で発表する。 | |
| 第2回 | 薬物動態—吸収分布： 薬物動態の基本をなすADMEのうち、吸収相および分布相を理解する。 | 第2回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第3回の授業で発表する。 | |
| 第3回 | 薬物動態—代謝排泄： 薬物動態の基本をなすADMEのうち、代謝相および排泄相を理解する。 | 第3回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第4回の授業で発表する。 | |
| 第4回 | 薬物動態—薬物相互作用： 複数の薬物が使われることによる、薬物動態の複雑系を理解する。 | 第4回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第5回の授業で発表する。 | |
| 第5回 | 薬物動態—蓄積： 同一薬物の連用が原因で発生する、薬物動態の複雑系を理解する。 | 第5回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第6回の授業で発表する。 | |
| 第6回 | 薬物動態—初回通過効果： 投与経路が原因で発生する、薬物動態の複雑系を理解する。 | 第6回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第7回の授業で発表する。 | |
| 第7回 | 薬力学—作用標的分子： 薬力学の要となる「薬の効き処」を科学的に理解する。 | 第7回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第8回の授業で発表する。 | |
| 第8回 | 薬力学—受容体刺激： 受容体—細胞内情報伝達系を介する薬の作用機序を理解する。 | 第8回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第9回の授業で発表する。 | |
| 第9回 | 薬力学—受容体遮断： 受容体遮断による薬の効果とその機序を理解する。 | 第9回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第10回の授業で発表する。 | |
| 第10回 | 薬力学—酵素・イオン： 酵素およびイオンの流れに対して効く薬を理解する。 | 第10回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第11回の授業で発表する。 | |
| 第11回 | 自律神経作用薬： 交感神経・副交感神経に作用する薬を理解する。 | 第11回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第12回の授業で発表する。 | |
| 第12回 | 循環系作用薬： 降圧薬・強心薬および不整脈・虚血性心疾患の治療薬を理解する。 | 第12回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第13回の授業で発表する。 | |
| 第13回 | 中枢神経作用薬： 中枢神経に対する刺激薬・抑制薬・調整薬を理解する。 | 第13回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第14回の授業で発表する。 | |
| 第14回 | 抗菌薬： 化学療法としての抗菌薬を理解する。 | 第14回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第14回の授業で発表する。 | |
| 第15回 | 抗腫瘍薬： 化学療法としての悪性腫瘍治療薬を理解する。 | 第15回授業内容について考察し、問題点をウェブや参考書などで調査する。疑問点やその他意見を第14回の授業で発表する。 | |

生化学特論

更新日：2024/03/13 08:46:13

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 前期 | 科目コード | 1B100910 | 授業コード | |
| 担当教員 | 原田 信広 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0037 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | |

授業概要

| | |
|----|---|
| 内容 | 高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病や悪性腫瘍など多くの疾病は生命活動に必要な代謝経路を担う酵素の質的及び量的な異常に起因する。そこでまず酵素の構造や機能について今までの理解を再確認しつつ、栄養素からの生体エネルギー変換に関わる代謝経路を中心に律速酵素の概念、そしてその調節機構及び酵素異常が引き起こす病態について学修する。色々な代謝経路の提示はするが、目的はあくまで健康的な生活を送るための基盤となる生命活動の基礎的理解、そして代謝異常に起因する疾病の病態を理解するための助けとして活用して欲しい。 |
| 方法 | 授業に先立って配るプリントを参考にしながら板書及びパワーポイントを用いて講義を行う。大事なポイントや疑問点などについては随時グループディスカッションを行う。最終的な評価はレポート内容より理解度を推し計ることにより行う。提出されたレポートは添削、コメントを付して返還する。 |

履修条件

特になし

履修する上の留意点

特になし

到達目標

| | |
|---|-------------------------------------|
| 1 | エネルギー代謝を中心とした代謝経路を説明できる。 |
| 2 | 酵素の質的、量的異常により各種疾病が発症する事を例をあげて説明できる。 |
| 3 | 授業に積極的に参加し、質疑応答出来る。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|------------------|----|
| 到達目標① | レポート内容 | 20 |
| 到達目標② | レポート内容 | 40 |
| 到達目標③ | 授業・討論中の発言および質疑応答 | 40 |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------|-----|----|
| 1 | 特になし | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|--------------------------|--------|-----------------|
| 1 | イラストレイテッド ハーパー・生化学 原著30版 | 丸善株式会社 | ハーパー著 (清水孝雄他翻訳) |

オープンな教育リソース

なし

学生へのメッセージ

昨今の「健康指向ブーム」によってTV・新聞・雑誌などのマスメディアでは種々の健康食・サプリメントなどが広告されているが、生化学的知識で考察すれば疑問符がつくようなものも少なくない。まず導入として大学学部で習う生化学の内容をかみ砕いて概説しますので、この講義を通してそうした疑問点・問題点などが把握出来るようになることを期待している。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートに対しては、添削およびコメントを付して返却し、より深い正確な理解が得られるように配慮する。必要に応じて授業での解説も行う。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|------|--|---|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | 酵素の構造と特徴 構成アミノ酸と立体構造 補酵素の重要性 | アミノ酸変異が立体構造に与える影響と誘発される疾患を理解する。 ビタミン欠乏症の病態を理解する。 | |
| 第2回 | 酵素反応の調節 アロステリック調節とリン酸化調節 | 最終産物による代謝経路の制御を理解する。 癌などで細胞内シグナル伝達系の異常がリン酸化異常に起因する事を理解する。 | |
| 第3回 | 代謝経路と酵素 代謝反応における律速酵素の重要性 | 治療薬の標的として何故、律速酵素が重要なのかを理解する。 | |
| 第4回 | 栄養素の消化・吸収 | 何故、消化する必要があるのかを理解する。 水溶性と脂溶性との特性の差を理解する。 吸収障害に起因する疾患を理解する。 | A、B |
| 第5回 | 糖代謝 解糖系の位置づけ 共通エネルギー源としてのATP | 糖原病の病態を理解する。 解糖系酵素欠損の病態を理解する。 | A、B |
| 第6回 | 糖代謝 TCA回路による還元力の引き出し | ピルビン酸合成酵素の代謝上の重要性と欠損症の病態を理解する。 糖、タンパク質、脂質代謝の分岐点としてのハブ機能を理解する。 | A、B |
| 第7回 | ミトコンドリアの電子伝達系 還元力をATP生成に変換 | ミトコンドリア病を理解する。 一酸化炭素や硫化水素中毒の病態を理解する。 | ディスカッション |
| 第8回 | 糖代謝から分枝する代謝経路 グリコーゲン合成、ペントースリン酸経路、ウロン酸経路 | 糖原病を理解する。 ペントース尿症やソラマメ中毒の病態を理解する。 | |
| 第9回 | 脂質代謝 脂質の合成と分解 リポタンパク質の役割 | 高度不飽和脂肪酸の重要性を理解する。 脂質異常症の病態を理解する。 | |
| 第10回 | 脂質代謝 エイコサノイドとコレステロール及びステロイド生成 コレステロールの分解調節 | ステロイド合成異常症を理解する。 胆汁酸の腸肝循環を理解する。 | A、B |
| 第11回 | 生体エネルギー源としての血糖及びケトン体レベル 糖尿病の成因と治療法 | 空腹・飢餓時の生体エネルギー源の変移を理解する。 糖尿病治療薬の作用点を理解する。 血糖レベルとケトン体の関係を理解する。 | A、B |
| 第12回 | アミノ酸の合成と分解 尿素回路 | 高アンモニア血症の成因を理解する。 | |
| 第13回 | 核酸代謝 ヌクレオチドの合成と分解 DNA解析技術 | レッシュナイハン症候群、SCID、痛風などの成因を理解する。 DNAシーケンサーやPCRの原理と応用を理解する。 | A、B |
| 第14回 | 高血圧の臨床生化学 | レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系を理解する。 生理活性ペプチドの役割を理解する。 | A、B |
| 第15回 | 神経変性疾患の臨床生化学 | 神経伝達物質の合成と分解を理解する。 神経変性疾患の病因と病態を理解する。 | A、B |

健康スポーツ科学特論

更新日：2024/01/16 10:34:50

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|--------|---------------------|-----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 前期, 後期 | 科目コード | 1B201700 | 授業コード | |
| 担当教員 | 刑部 純平 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0038 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | |

授業概要

| | | | |
|----|---|--|--|
| 内容 | 健康・スポーツ科学に関連する幅広い分野（トレーニング科学、スポーツ医学、栄養学など）の最新の研究論文を精読し、自身の研究活動及び研究成果発表（学会でのポスター発表、口頭発表）へ活かすことを目的とする。 また、研究によって得られた知見をどのようにフィットネス・スポーツ現場で応用するのか議論することで、研究者からの視点だけでなく臨床家としての視点から研究を理解するスキルを養うことを目的とする。 | | |
| 方法 | 本授業では、原著論文・総説論文の精読、ポスター発表、スライド資料を用いた口頭発表を実施する。また、研究論文に対する質疑応答などのディスカッションを行う。 | | |

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

自身の研究成果を国内外での学会で発表することを目指していることが望ましい。

到達目標

| | |
|---|---------------------------------|
| 1 | 研究の種類・手法を理解し、自身の研究活動に活かすことができる。 |
| 2 | 学会発表を想定し、ポスターの作成・発表ができる。 |
| 3 | 学会発表を想定し、スライド資料の作成・口頭発表ができる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|----------------|----|
| 到達目標① | 授業態度（ディスカッション） | 30 |
| 到達目標② | プレゼンテーション | 35 |
| 到達目標③ | プレゼンテーション | 35 |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------|-----|----|
| 1 | 特になし | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------|-----|----|
| 1 | 特になし | | |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

健康・スポーツ科学の分野は多岐にわたります。幅広い分野の知見に触れ、自身の研究者としてのスキルをブラッシュアップしていきましょう。

課題に対するフィードバック

授業内でクラスメート、講師とディスカッションをします。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|------|----------------|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| | | | |

| | | | |
|------|-------------------------------|--------------------------------|-----|
| 第1回 | オリエンテーション | 第1回目は、授業の進め方について確認する。 | |
| 第2回 | 原著論文の読み方 ※講師が読み方の解説をします | 予習・復習：第3回で使用する研究論文を精読しておく。 | B |
| 第3回 | 研究論文精読①（原著論文） | 予習・復習：第4回で使用する研究論文を精読しておく。 | B |
| 第4回 | 研究論文精読②（原著論文） | 予習・復習：第5回で使用する研究論文を精読しておく。 | B |
| 第5回 | 研究論文精読③（原著論文） | 予習・復習：第6回で使用する研究論文を精読しておく。 | B |
| 第6回 | 研究論文精読④（原著論文） | 予習・復習：第3～6回で使用した研究論文を再度精読しておく。 | B |
| 第7回 | 総説論文の読み方 ※講師が読み方の解説をします | 予習・復習：第8回で使用する研究論文を精読しておく。 | |
| 第8回 | 研究論文精読⑤（総説論文） | 予習・復習：第9回で使用する研究論文を精読しておく。 | B |
| 第9回 | 研究論文精読⑥（総説論文） | 予習・復習：第8～9回で使用した研究論文を再度精読しておく。 | B |
| 第10回 | ポスター発表の方法 ※講師が発表のお手本を提示します | 予習・復習：第11～12回で使用する研究論文を入手しておく。 | |
| 第11回 | ポスターの作成・発表① | 予習・復習：ポスター発表の準備しておく。 | B、D |
| 第12回 | ポスターの作成・発表② | 予習・復習：ポスター発表の準備しておく。 | B、D |
| 第13回 | 口頭発表の方法 ※講師が発表のお手本を提示します | 予習・復習：第14～15回で使用する研究論文を入手しておく。 | |
| 第14回 | プレゼンテーションの作成・発表① | 予習・復習：口頭発表の準備しておく。 | B、D |
| 第15回 | プレゼンテーションの作成・発表② | 予習・復習：口頭発表の準備しておく。 | B、D |

健康栄養学特論

更新日：2024/02/26 10:03:07

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|-----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 前期 | 科目コード | 1B101000 | 授業コード | |
| 担当教員 | 森 圭子 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0009 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | |

授業概要

| | |
|----|---|
| 内容 | 多くの栄養情報が日々大量にあふれ、正しく活用することがますます難しくなっている。栄養疫学が果たす役割は大きい。本特論では食生活・栄養による健康への影響を疫学的に明らかにする「栄養疫学」に関する理解を深める。 |
| 方法 | 教科書に基づいて講義を行う。随時グループディスカッションを行う。 多様なテーマについて自ら調べたことを毎回レポートにして提出することを求める。 |

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

毎回レポート課題を提示し、それが提出されない場合は減点します。

到達目標

| | |
|---|---|
| 1 | 講義内容の正しい理解を基に、他者と討議するために適切な文献を選び説明できる（理解・分析・文献選定のための信頼性の高い情報源の特定、議論と説明能力） |
| 2 | 意欲・関心・積極性を持ち合わせ、健康と食品・栄養の科学（栄養疫学）に対して多面的にかつ考究できる（批判的思考など学問的成熟、知識の深さ） |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|---------|----|
| 到達目標① | 発表とレポート | 70 |
| 到達目標② | 講義態度 | 30 |
| 到達目標③ | | |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|----------------|------|------|
| 1 | わかりやすいEBNと栄養疫学 | 同文書院 | 佐々木敏 |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----|-----|----|
| 1 | | | |

オープンな教育リソース

「栄養疫学という科学」 <https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/series/169>「栄養疫学勉強会」 <https://www.bing.com/videos/search?q=%e6%a0%84%e9%a4%8a%e7%96%ab%e5%ad%a6%e5%8b%89%e5%bc%b7%e4%bc%9a&qpvf=%e6%a0%84%e9%a4%8a%e7%96%ab%e5%ad%a6%e5%8b%89%e5%bc%b7%e4%bc%9a&FORM=VDR>「東京疫学勉強会」 <https://www.youtube.com/channel/UCiulNwM-6chpNjiWcYaLLCA>

学生へのメッセージ

最近、「well-being」という言葉なしでは、健康政策・健康増進・健康教育を進めることはできなくなっているが、健康や栄養における疫学への理解と疫学が果たす役割・重要性は増している。しっかり学んで本教科を役立ててほしい。

講義は受講生の関心度によってさらに展開するため、シラバスの順序を変えたり、内容を変更して進むことがある。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートに対しては、次のディスカッションのテーマとしたり、添削およびコメントを付けて返却する。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|------|--|--|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | 公衆栄養学とは | 公衆栄養学に対するイメージを簡単な図や文字で書き出し てみる。第1回授業の感想や調べたことを400字以内にま とめ次回提出。 | A、B |
| 第2回 | EBNとは何か、研究の質 トピックス1、高木兼寛の栄養学上の貢献（脚気） | p3-13までを読んで質問を考えてくる。第2回授業の感想を 400字以内にまとめ次回提出。 | |
| 第3回 | ポピュレーションストラテジー、習慣および集積された事 実の重要性、バランスある評価感覚 トピックス2、砂糖と糖尿病 | p14-22までを読んで質問を考えてくる。第3回授業の感想 や調べたことを400字以内にまとめ次回提出。 | |
| 第4回 | 栄養・健康情報の種類と価値、EBN トピックス3、妊娠・出産と骨密度 | p25-36までを読んで質問を考えてくる。第4回授業の感想 を400字以内にまとめ次回提出。 | A、B |
| 第5回 | 栄養・健康情報における科学性と娯楽性 トピックス4、アルコールと血圧、最近のアルコールの考え 方 | p37-45までを読んで質問を考えてくる。第5回授業の感想 や調べたことを400字以内にまとめ次回提出。 | A、B |
| 第6回 | 疫学入門（目的） トピックス5、食塩と血圧 | p49-50までを説明できるよう読んでくる。第6回授業の感 想を400字以内にまとめ次回提出。 | |
| 第7回 | 疫学研究の方法（記述疫学研究） トピックス6、葉酸と神経管欠損児 | p50-53までを説明できるよう読んでくる。第7回授業の感 想や調べたことを400字以内にまとめ次回提出。 | |
| 第8回 | 疫学研究の方法（分析疫学研究—生態学的研究、横断研 究、因果の逆転、交絡） トピックス7、葉酸と心筋梗塞死亡率、早食いと肥満度、血 圧と食塩 | p54-61までを読んで質問を考えてくる。第8回授業の感想 や調べたことを400字以内にまとめ次回提出。 | |
| 第9回 | 疫学的手法（分析疫学研究—コホート研究、症例対照研 究） トピックス8、肺がんと心筋梗塞、果物摂取量と脳卒中死亡 率、後縦靭帯骨化症と食事など | p62-69までを読んで質問を考えてくる。第9回授業の感想 を400字以内にまとめ次回提出。 | A、B |
| 第10回 | 疫学的手法（介入研究、RCT、）、集団の代表性、Hillの基 準 トピックス9、βカロテンサプリメントと肺がん予防効果 | p69-81までを読んで質問を考えてくる。第10回授業の感想 や調べたことを400字以内にまとめ次回提出。 | A、B |
| 第11回 | 疫学的手法（メタアナリシス） 疫学のための統計学入門 トピックス10、アントシアニンと目の機能 | p85-106までを読んで質問を考えてくる。第11回授業の感 想や調べたことを400字以内にまとめ次回提出。 | |
| 第12回 | 栄養疫学入門、食事調査、調査期間、日間変動、季節間変 動 トピックス11、季節煮る体重変動と食事の摂取量の関係 | p109-115までを読んで質問を考えてくる。第12回授業の感 想や調べたことを400字以内にまとめ次回提出。 | A、B |
| 第13回 | 食事記録法と食事思い出し法、食物摂取頻度法と食事歴票 トピックス12、食事調査法は時代とともに変遷するのか？ | p116-132までを読んで質問を考えてくる。第13回授業の感 想や調べたことを400字以内にまとめ次回提出。 | |
| 第14回 | エネルギー調整、生体指標 トピックス13、エネルギーと他の栄養素の関係、食事療法 の難しさ | p132-145までを読んで質問を考えてくる。第14回授業の感 想や調べたことを400字以内にまとめ次回提出。 | A、B |
| 第15回 | 食行動・食知識・食の考え方と質問票、変数特性から見た 栄養疫学の特徴 トピックス14、減塩は可能か？ | p146-148までを読んで質問を考えてくる。第15回授業の感 想や調べたことを400字以内にまとめ次回提出。 | A、B |

栄養教育学特論

更新日：2024/03/01 14:11:47

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 後期 | 科目コード | 1B201800 | 授業コード | |
| 担当教員 | 宮澤 洋子 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0039 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | |

授業概要

| | |
|----|---|
| 内容 | 人々の生涯を通じた健康維持・増進、疾病予防のための食生活改善の意義や必要性について理解し、生活の質を向上させるための栄養教育の理論と方法について学習する。食行動変容のための行動科学理論や技法、対象者それぞれのライフステージに応じた信頼関係を基礎としたカウンセリングスキル及び教育方法の基礎的知識と技術の習得をする。栄養教育・食育研究を取り上げ、論文抄読・ディスカッションを通じて理論的基礎への理解を深める。 |
| 方法 | パワーポイントなどの講義とグループワークを組み合わせる授業を進める。ディスカッション、ロールプレイを行い。意見交換を行う。 |

履修条件

特になし

履修する上の留意点

到達目標

| | |
|---|--------------------------------|
| 1 | 栄養教育の理論と方法について説明することができる。 |
| 2 | 基礎的なカウンセリングスキルを修得し、説明することができる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|------|----|
| 到達目標① | レポート | 70 |
| 到達目標② | 講義態度 | 30 |
| 到達目標③ | | |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------------|-----|----|
| 1 | プリント等を配布する | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|---------------------------------|------|-------|
| 1 | 栄養科学ファウンデーションシリーズ 2 応用栄養学 (第3版) | 朝倉書店 | 江上いすず |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

栄養教育の理論を深めその方法を修得するにあたり、積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

課題へのコメントやディスカッションを通じて、フィードバックする。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
|-----|-----------------|--|------------------|
| | 学修内容 | | |
| 第1回 | 栄養教育の目的、食行動の多様性 | ①栄養教育の目的について予習しておく ②栄養教育の目的についての課題をまとめ、授業終了後に提出する | A |
| 第2回 | 行動科学の理論とモデル | ①行動科学の理論について基礎的な内容を予習しておく | A、B |

| | | | |
|------|---|---|-------|
| | | ②行動科学の理論とモデルについての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | |
| 第3回 | 行動変容の技法と基本的概念 | ①行動変容の技法と基本的概念について予習しておく ②行動変容の技法と基本的概念についての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B |
| 第4回 | 主な行動変容の技法 | ①主な行動変容の技法について予習しておく ②主な行動変容の技法についての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B |
| 第5回 | 栄養カウンセリングの基本、構造 | ①栄養カウンセリングの基本、構造について予習しておく ②栄養カウンセリングの基本、構造についての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B |
| 第6回 | グループ討議 | ①グループ討議について予習しておく ②グループ討議についての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B |
| 第7回 | 栄養カウンセリング 無条件の受容、信頼関係の構築 | ①栄養カウンセリング 無条件の受容、信頼関係の構築について予習しておく ②栄養カウンセリング 無条件の受容、信頼関係の構築についての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B |
| 第8回 | 栄養カウンセリング 基本的傾聴 | ①栄養カウンセリング 基本的傾聴について予習しておく ②栄養カウンセリング 基本的傾聴についての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B |
| 第9回 | 栄養カウンセリング 要約、明確化、開かれた質問、閉ざされた質問 | ①栄養カウンセリング 要約、明確化、開かれた質問、閉ざされた質問について予習しておく ②栄養カウンセリング 要約、明確化、開かれた質問、閉ざされた質問についての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B |
| 第10回 | ライフステージ別の栄養教育の展開 妊娠・授乳期の栄養教育 | ①ライフステージ別の栄養教育の展開 妊娠・授乳期の栄養教育について予習しておく ②ライフステージ別の栄養教育の展開 妊娠・授乳期の栄養教育についての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B、D |
| 第11回 | ライフステージ別の栄養教育の展開 乳幼児期、学童期の栄養教育 | ①ライフステージ別の栄養教育の展開 乳幼児期、学童期の栄養教育について予習しておく ②ライフステージ別の栄養教育の展開 乳幼児期、学童期の栄養教育についての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B、D |
| 第12回 | ライフステージ別の栄養教育の展開 成人期、高齢者の栄養教育 | ①ライフステージ別の栄養教育の展開 成人期、高齢者の栄養教育について予習しておく ②ライフステージ別の栄養教育の展開 成人期、高齢者の栄養教育についての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B、D |
| 第13回 | 栄養カウンセリングの実際① 指示したケーススタディについて、カウンセリングのストーリーを作成する | ①栄養カウンセリングの実際① ケーススタディについて予習しておく ②栄養カウンセリングの実際① 指示したケーススタディについての課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B |
| 第14回 | 栄養カウンセリングの実際② 各々の作成したカウンセリングの方法を発表する | ①栄養カウンセリングの実際② 作成したカウンセリングの方法の発表を練習しておく。 ②栄養カウンセリングの実際② 作成したカウンセリングストーリーの課題をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B、D |
| 第15回 | 総括 自己のカウンセリングの考察と他者のカウンセリングの評価など、ディスカッションを行う | ①カウンセリングストーリーについての考察を準備しておく。 ②自己のカウンセリングと他者のカウンセリングの評価をまとめ、授業終了後に提出する。 | A、B |

養護実践学演習

更新日：2024/01/29 23:34:09

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 後期 | 科目コード | 1B101700 | 授業コード | |
| 担当教員 | 森 千鶴 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0012 | 授業形態 | 演習 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | ○ | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | | 30+60 | |

授業概要

| | |
|----|---|
| 内容 | 養護教諭の職務や養護実践、児童生徒等の健康課題などに関する文献・論文抄読を行う。養護教諭として健康な学校づくりに寄与するための根拠となる知識を集積するとともに研究方法を学ぶ。 |
| 方法 | 文献・論文の抄読、受講者の養護実践を研究的視点で振り返り討議することにより、養護教諭としての研究力・実践力向上に繋がる知識を得る。また、養護教諭観の醸成を図る。 |

履修条件

養護実践に関する研究（養護教諭・学校保健・児童生徒等の健康課題など）に関心があること。

履修する上の留意点

養護実践とは、養護教諭が児童生徒等の心身の健康の保持増進、発育発達を支援するために目的をもって意図的計画的に行う教育活動である。授業では養護実践を研究的視点で検討するため、履修に当たっては養護教諭免許状取得者または取得予定者が望ましい。

到達目標

| | |
|---|----------------------------------|
| 1 | 養護実践に関する文献・論文抄読に積極的に取り組むことができる。 |
| 2 | 研究的視点で論文抄読を行い、自身の研究活動に生かすことができる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|--------------|----|
| 到達目標① | レポート・発表・意見交換 | 50 |
| 到達目標② | レポート・発表・意見交換 | 50 |
| 到達目標③ | | |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------------|-----|----|
| 1 | (後日、決定する。) | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----------|-----|----|
| 1 | (随時提示する。) | | |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

(抄読について)

- ・発表者は、論文の構成、記述方法、評価方法、考察、図表について資料作成を行い、他の受講者に説明する。その説明をもとに討議し読み解く。(文献やインターネット等で統計法、用語などを調べ解釈すること)
- ・抄読する研究論文は原著や研究報告が望ましく、査読がある論文とする。

課題に対するフィードバック

- ・発表やレポートに対し、教員の意見や補足を加えて理解を深める。
- ・他の人の発表について意見を出し合い、多様な視点への理解を深める。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|------|----------------|-------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニング |
| | | | |

| | | | グの実施方法 |
|------|----------------------------|---|--------|
| 第1回 | オリエンテーション（授業の目標及び概要、授業計画等） | 配付資料により、研究活動計画について検討する。 | |
| 第2回 | 養護教諭の職制について 養護教諭の職務について | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第3回 | 「養護」の変遷について | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第4回 | 「養護実践」の現状と課題について | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第5回 | 「保健室」の変遷・機能について | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第6回 | 「保健室」の関連法規、経営の課題について | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第7回 | 児童生徒等の健康課題に関する文献抄読と討議① | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第8回 | 職員の健康課題に関する文献抄読と討議② | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第9回 | 研究論文の抄読①（発表者は資料を作成） | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第10回 | 研究論文の抄読②（発表者は資料を作成） | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第11回 | 研究論文の抄読③（発表者は資料を作成） | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第12回 | 研究論文の抄読④（発表者は資料を作成） | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第13回 | 研究論文の抄読⑤（発表者は資料を作成） | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第14回 | 研究論文の抄読⑥（発表者は資料を作成） | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| 第15回 | 研究論文の抄読⑦（発表者は資料を作成） | 予習：前回示した課題についてレポートにまとめる。 復習：学修内容についての自分の考え、疑問点等をレポートにまとめる。 | B |
| | まとめ | | |

行動科学特論

更新日：2024/01/31 16:36:10

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|--------|---------------------|-----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 前期, 後期 | 科目コード | 1B201900 | 授業コード | |
| 担当教員 | 木戸 盛年 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0040 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | |

授業概要

| | |
|----|--|
| 内容 | 行動科学は人間の行動の予測と制御を目的として人間の行動の原理や法則を究明しようとする、心理学をはじめ様々な学問領域にまたがる科学分野である。この講義では、行動科学に関して、心理学領域での研究を中心に様々な知見や理論を紹介し、行動科学についての知識を修得してもらう。そして、その知識をもとに自身の研究テーマの行動科学的な意義についての理解を深めてもらう。 |
| 方法 | 各回の講義テーマの内容に基づき作成したパワーポイントを用いた授業を行う（パワーポイントを基に作成した講義資料も配布する）。また、講義内では各テーマに関する議論も行うため、関連する文献や過去研究を事前に各自で調べ理解を深めておくことが望まれる。 |

履修条件

特に履修条件はありません。

履修する上の留意点

原則、対面授業とします。

各回の講義テーマに関連する文献や過去研究を自分で調べ、内容をまとめ理解しておく事前の準備学習が必要となります。

到達目標

| | |
|---|--|
| 1 | 行動科学の成り立ち、行動科学の基礎的な研究テーマと高次の研究テーマの内容を理解し説明できる。 |
| 2 | 行動科学に関する文献・論文を調べ、内容を理解し、自分の意見を述べることができる。 |
| 3 | 行動科学的な観点から自身の研究の意義を捉え、学んだ内容を自分の研究に応用できる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|--------------------|----|
| 到達目標① | 各講義の事前準備学習の内容/授業態度 | 30 |
| 到達目標② | 各講義の事前準備学習の内容/授業態度 | 30 |
| 到達目標③ | レポート | 40 |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-------------------|-----|--|
| 1 | はじめての応用行動分析（日本語版） | 二瓶社 | ポール・A. アルバート / アン・C. トルーマン（著）、佐久間 徹 / 谷 晋二（監訳） |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|---------------------|-------|---|
| 1 | 行動分析学入門 | 産業図書 | 杉山 尚子, 島宗理, 佐藤方哉, リチャード・W. マロット, アリア・E・マロット |
| 2 | 行動健康経済学—人はなぜ判断を誤るのか | 日本評論社 | 依田 高典, 西村 周三, 後藤 励 |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

この講義に参加し行動科学についての理解を深め知見を得ることで、人の行動を主観的のみならず客観的な視点から分析できるようになると思います。行動科学の観点から自身の研究を捉え考えられるようになることで、自身の研究の意義がより高まるでしょう。

課題に対するフィードバック

各講義での質疑応答やディスカッションを通して、フィードバックしていく。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|------|-------------------------------|--|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | 導入 行動科学とは | 予習：自身の研究の背景・目的・意義をパワーポイント等を使用しプレゼンできるようにしておく。 復習：行動科学とは何なのかを自分の言葉としてまとめ、行動科学の観点から自身の研究の位置づけ・意義を考えてまとめておく。 | A、B |
| 第2回 | 行動論による説明 生理学・発達理論・認知理論との関連 | 予習：テキスト第1章「応用行動分析の基本的な考え方」を読んでまとめておく。 復習：自身の研究テーマと内容に関して、行動論・生理学・発達理論・認知理論からそれぞれ考えてまとめておく。 | A、B |
| 第3回 | 行動科学の成り立ち 行動主義の歴史 | 予習：行動科学、行動主義の歴史について事前に調べてまとめておく。 復習：行動主義の歴史から自身の研究がどのような位置づけ・意義になるか考えてまとめておく。 | A、B |
| 第4回 | 応用行動分析を適応する際の責務 | 予習：テキスト第2章「応用行動分析を適応するにあたっての責務」を読んでまとめておく。 復習：自身の研究に応用行動分析を適応する際、どのような考え、観点から何に注意しなければならないのか考えてまとめておく。 | A、B |
| 第5回 | 行動目標の設定（定義・書式・拡大） | 予習：テキスト第3章「行動目標」を読んでまとめておく。 復習：自身の研究（修論作成）を進めるにあたり、自身の行動目標を設定し、まとめておく。 | A、B |
| 第6回 | 行動が起こる頻度を増やす操作 | 予習：テキスト第6章「行動の生起頻度を増大させる随伴性操作」を読んでまとめておく。 復習：自身の研究に強化随伴性の考えがどのように応用されるのか、考えてまとめておく。 | A、B |
| 第7回 | 不適切な行動を減らす操作 | 予習：テキスト第7章「不適切な行動を減少させる結果操作」を読んでまとめておく。 復習：自身の研究に分化強化や消去の考えがどのように応用されるのか、考えてまとめておく。 | A、B |
| 第8回 | 刺激統制とシェイピング | 予習：テキスト第8章「分化強化：刺激統制とシェイピング」を読んでまとめておく。 復習：自身の研究に分化強化やシェイピングの考えがどのように応用されるのか、考えてまとめておく。 | A、B |
| 第9回 | 行動変容の般化 | 予習：テキスト第9章「行動変容を般化させるために」を読んでまとめておく。 復習：自身の研究に般化の考えがどのように応用されるのか、考えてまとめておく。 | A、B |
| 第10回 | 実験デザイン（グループデザイン・一事例実験デザイン） | 予習：テキスト第5章「一事例の実験デザイン」を読んでまとめておく。 復習：自身の研究を応用行動分析的にとらえた際、どのような実験デザインでデータを収集するのか考えてまとめておく。 | A、B |
| 第11回 | 行動データの収集方法と視覚化 | 予習：テキスト第4章「データの収集とグラフ化」を読んでまとめておく。 復習：自身の研究でデータを収集する際、どのような方法でどのようなデータを収集し視覚化し分析するのか考えてまとめておく。 | A、B |
| 第12回 | 文献購読①：行動科学の研究論文の文献検索 | 予習：自身の研究テーマと研究目的をもとに、研究分野や研究に関連するキーワードをまとめてくる。 復習：自身の研究テーマに基づき、文献検索した論文を手に入れて読む。 | A、B |
| 第13回 | 文献購読②：検索した文献を購読しまとめる | 予習：読んだ内容を箇条書きなどして論文の内容・構成を | A、B |

| | | | |
|------|---------------------------|--|-----|
| | | <p>まとめてくる。</p> <p>復習：まとめた内容をもとにプレゼン用のパワーポイントを作成する。</p> | |
| 第14回 | 文献購読③：まとめた内容のプレゼンと説明・質疑応答 | <p>予習：パワーポイントを用いたプレゼンの練習をしてくる。</p> <p>復習：プレゼンでの質疑応答の内容・返答をまとめる。</p> | A、B |
| 第15回 | まとめ | <p>予習：これまでの授業や、文献購読にてなされた内容を振り返りまとめておく。</p> <p>復習：行動科学的な観点から、自分の研究の行動科学的意義を捉え、レポートにまとめる。</p> | A、B |

臨床心理学特論

更新日：2024/01/31 14:03:24

| | | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 前期 | 科目コード | 1B200100 | 授業コード | | |
| 担当教員 | 土屋 満知 | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | | |
| 科目ナンバー | M0015 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | | |

授業概要

| | |
|----|---|
| 内容 | 臨床心理学の基礎理論として (1) 心の病理、(2) 心のアセスメント、(3) 心の治療という3つの視点を主に取り上げ、人間理解の方法と支援のあり方について学ぶ。 |
| 方法 | 配布資料とパワーポイント等を用いて講義を行うが、必要に応じて映像資料や臨床事例を活用する。授業回によっては、検査者一被検者体験や面接者クライアント体験等のペアワークを実施する予定である。 |

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

授業に関することについて、質問等がある場合はメールでコンタクトを取ってください。メールアドレスは初回授業で指示します。

到達目標

| | |
|---|--|
| 1 | 現代の様々な心理的諸問題について、臨床心理学の視点から理解し、考察することができる。 |
| 2 | 毎回の授業内容の核となる事柄について、適切にリアクションし、授業中の議論に基づいて自分の見解をまとめることができる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|------------|----|
| 到達目標① | 討論等への積極的参加 | 40 |
| 到達目標② | レポート | 60 |
| 到達目標③ | | |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|---------------|-----|----|
| 1 | テキストは特に指定しない。 | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|--|---------|--|
| 1 | 心理臨床大辞典 | 培風館 | 氏原寛・亀口憲治・成田善弘ほか（共著） |
| 2 | DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 | 医学書院 | 米国精神医学会（APA）、高橋三郎・大野裕（監訳） |
| 3 | 症例でわかる精神病理学 | 誠信書房 | 松本卓也（著） |
| 4 | 臨床心理アセスメントの基礎（第2版） | ナカニシヤ出版 | 沼初枝(著) |
| 5 | 心理アセスメント：心理検査のミニマム・エッセンス（心の専門家養成講座3） | ナカニシヤ出版 | 松本真理子・森田美弥子（編著） |
| 6 | 臨床心理学入門 | 東京大学出版会 | スーザン・レウエリン&ケイティ・アフエスーヴァン・ドーン（著）、下山晴彦（編訳） |
| 7 | 耳の傾け方—こころの臨床家を目指す人たちへ その他、授業で適宜紹介する | 岩崎学術出版社 | 松木邦裕（著） |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

検査者－被検査者体験や面接者－クライアント体験等のペアワークを実施する授業回があるため、2名以上の履修者がいることが望ましい。

課題に対するフィードバック

授業内で行うディスカッション等について、授業内で適宜コメントし、随時フィードバックを行う。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|------|---|---|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | 臨床心理学とは何か？ 臨床心理学の基本的な考え方 | 〔予習〕臨床心理学とはどのような学問なのか、各自でその概要および歴史について調べて要点をまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第2回 | 心の不適応について（1）3つの病態水準 | 〔予習〕病態水準について、どんなことでも良いので、次回講義までに調べて要点をまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第3回 | 心の不適応について（2）神経症水準の病理・病態 | 〔予習〕神経症水準の病理・病態について、どんなことでも良いので、次回講義までに調べて要点をまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第4回 | 心の不適応について（3）精神病水準の病理・病態 | 〔予習〕精神病水準の病理・病態について、どんなことでも良いので、次回講義までに調べて要点をまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第5回 | 心の不適応について（4）パーソナリティ障害の病理・病態 ・A群パーソナリティ障害 ・B群パーソナリティ障害 | 〔予習〕パーソナリティ障害について、どんなことでも良いので、次回講義までに調べて要点をまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第6回 | 心の不適応について（5）パーソナリティ障害の病理・病態 ・C群パーソナリティ障害 | 〔予習〕パーソナリティ障害とはどのような障害なのか、前回の授業内容も確認しながら各自で要点をまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第7回 | 心をアセスメントする（1） 観察を通しての理解 | 〔予習〕心をアセスメントするとは、どういうことなのか、各自で考えて要点をまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第8回 | 心をアセスメントする（2） 面接を通しての理解 | 〔予習〕面接を通して、心をアセスメントする際の留意点を各自で考えてまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B,C |
| 第9回 | 心をアセスメントする（3） 生活史の把握を通しての理解 | 〔予習〕生活史の把握を通して、心をアセスメントする際の留意点を各自で考えてまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B,C |
| 第10回 | 心をアセスメントする（4） 心理検査を通しての理解 | 〔予習〕心理検査を通して、心をアセスメントする際の留意点を各自で考えてまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第11回 | 心をアセスメントする（5） 心理検査を体験する | 〔予習〕心理検査体験を行う心理検査について、事前に調べ要点をまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B,C |
| 第12回 | 心の治療（1） 心理療法とは何か、様々な心理療法 | 〔予習〕どのような心理療法があるか各自で調べ、要点をまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第13回 | 心の治療（2） 事例を用いた検討 | 〔予習〕事前に事例資料を配布するので、目を通し、自分なりに事例の概要を掴んでおく。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第14回 | 心の治療（3） 治療者としての心の聴き方 | 〔予習〕心を聴く際の留意点について調べ、自分の考えをまとめる。 〔復習〕授業後、感想レポートを提出する。 | A,B |
| 第15回 | まとめと振り返り、質疑応答 | 〔予習〕これまでの授業内容について、各自で振り返っておく。 〔復習〕これまでの授業内容を振り返り、最終レポートに備える。 | A,B |

心理療法特論

更新日：2024/01/19 18:01:57

| | | | | | | | |
|---------------|--------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 後期 | 科目コード | 1B200510 | 授業コード | |
| 担当教員 | 長岡 由紀子 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0041 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | |

授業概要

| | |
|----|--|
| 内容 | 心理療法は心理専門職により行われるものでありますが、その背景となる知識や考え方は、心理専門職以外の対人援助職にも有用なものとなります。心理専門職のみならず、さまざまな職種で活用できる側面について扱います。 |
| 方法 | 適宜講義を行いながら、ロールプレイや表現活動を用いて、言語レベルからイメージレベルにわたる演習を行います。また、理解を深めるためにディスカッションも行います。 |

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

| | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 心理療法の定義とモデルを説明できる。 |
| 2 | 自分の中にわいてきたイメージを絵や言葉などで表現することができる。 |
| 3 | 精神分析、分析心理学、箱庭療法について説明できる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|--------------|----|
| 到達目標① | 授業内のディスカッション | 30 |
| 到達目標② | 授業内で行う演習の成果物 | 40 |
| 到達目標③ | レポート課題 | 30 |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----|-----|----|
| 1 | なし | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|----------|--------|-----------|
| 1 | ユング心理学入門 | 培風館 | 河合隼雄 |
| 2 | モモ | 岩波少年文庫 | ミヒャエル・エンデ |

オープンな教育リソース

必要に応じて紹介します。

学生へのメッセージ

心理療法を学ぶ動機が明確であると、授業への参加や理解がより充実したものになると思います。積極的な参加を期待します。

課題に対するフィードバック

提出されたレポートへのフィードバックは授業内で行います。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|--|--|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | ガイダンス（授業の進め方と評価方法の説明）、本授業の目的と受講生の関心領域の確認 | [予習]心理療法を学ぶ動機について考える。[復習]心理的援助が必要となる状況・領域について理解を深める。 | |

| | | | |
|------|---|---|---|
| 第2回 | [講義]意識と無意識、心の問題を実践的に捉える考え方 | [予習]無意識が成す事象の例を考える。[復習]HowとWhatによる思考の違いについて理解を深める。 | |
| 第3回 | [講義]言葉とイメージによる表現の違い | [予習]イメージを日頃どのように利用しているかを考える。[復習]言葉により限定されているものについて理解を深める。 | |
| 第4回 | [ディスカッション]課題の『モモ』（配布資料抜粋）を読んだ感想から、「聴く」ということについて考える。 | [予習]配布資料（『モモ』抜粋）を読む。[復習]授業の感想レポートを書く。 | C |
| 第5回 | [講義]心理療法のモデル | [予習]心理療法の定義を調べる。[復習]本日の内容を踏まえ、どのように他の現場で活用できるかを考える。 | |
| 第6回 | [講義]精神分析理論 | [予習]フロイトについて調べる。[復習]本日の内容をノートにまとめる。 | |
| 第7回 | [講義]分析心理学 | [予習]ユングについて調べる。[復習]本日の内容をノートにまとめる。 | |
| 第8回 | [演習]MSSMの実施。 | [予習]第3回授業のイメージの話について確認する。[復習]授業の感想レポートを書く。 | C |
| 第9回 | [講義]カウンセリングにおける関係性について。 | [予習]これまでの演習を参考にして、関係性で生じていることについて考える。[復習]マリオ・ヤコービの「分析的関係」の理解を深める。 | |
| 第10回 | [ディスカッション]ここまでの授業の振り返り。 | [予習]これまでの授業での疑問点や気づきをまとめる。[復習]授業の感想レポートを書く。 | C |
| 第11回 | [講義]箱庭療法 | [予習]箱庭療法について調べる。[復習]本日の内容をノートにまとめる。 | |
| 第12回 | [事例]箱庭療法の事例を聴く。 | [予習]イメージの象徴的意味について調べる。[復習]演習の感想レポートを書く。 | |
| 第13回 | [事例]箱庭療法の事例の振り返り。 | [予習]授業の感想から疑問点を抽出する。[復習]演習の感想レポートを書く。 | A |
| 第14回 | [ディスカッション]ここまでの授業の振り返り。 | [予習]これまでの授業での疑問点や気づきをまとめる。[復習]授業の感想レポートを書く。 | C |
| 第15回 | まとめ（心理療法の多様性） | [予習]クライアント像を考える。[復習]演習の感想レポートを書く。 | |

発達心理学特論

更新日：2024/01/29 19:29:03

| | | | | | | | |
|---------------|--------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 後期 | 科目コード | 1B200800 | 授業コード | |
| 担当教員 | 杉山 佳菜子 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0020 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | |

授業概要

| | |
|----|--|
| 内容 | ヒトの生涯にわたる心理的な発達について中高年期を中心に学ぶ。わが国の65歳以上の人口の割合は総人口の25%を超え、世界の先頭を切って「超高齢社会」に突入している。このような中で「中高年期」というキーワードを多面的に理解する事は重要である。本講義では心理学を中心に、医学・社会福祉学・生体科学などの観点から「生涯発達」や「加齢」について概説する。 |
| 方法 | パワーポイント、プリントを用いて講義を行う。講義の内容についてディスカッションを行い、または小レポートを課し、理解を深める。 |

履修条件

なし

履修する上の留意点

課題を提示し、それが提出されない場合は減点します。

到達目標

| | |
|---|--|
| 1 | ヒトのライフサイクルを生涯発達という視点でとらえ、加齢にともなうさまざまな変化について理解する。 |
| 2 | 中高年者の身体的・精神的発達の特徴を理解し、加齢にともない生じる諸問題について想像できるようになる。 |
| 3 | 各発達段階の課題について理解し、自分ができるサポートについて考える力を身につける。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|--------|----|
| 到達目標① | 小レポート | 20 |
| 到達目標② | 小レポート | 20 |
| 到達目標③ | 総合レポート | 60 |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------|-----|----|
| 1 | 特になし | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------|-----|----|
| 1 | 特になし | | |

オープンな教育リソース

学生へのメッセージ

教科書は使用しません。プリント資料を配布します。参考文献は講義内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバック

提出された小レポートについては、講義内でコメントしてフィードバックします。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|-------------------|--|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | オリエンテーション：授業の概要説明 | 予習：シラバスをよく読んでおく。 復習：講義内容を復習し、与えられたテーマについて予習 | |

| | | | |
|------|-----------------------------|--|---|
| | | しておく。 | |
| 第2回 | ヒトの生涯発達と発達課題：「中年期」「高齢期」を中心に | 予習：エリクソンの発達課題について理解する。 復習：「ヒトの生涯発達と発達課題」について概要を整理する。 | |
| 第3回 | 発達にともなう身体・生理機能の変化 | 予習：第二次性徴・更年期障害について理解を深める。 復習：「発達にともなう身体・生理機能の変化」について、授業内容を参考に概要をまとめる。 | |
| 第4回 | 知能と発達 | 予習：知能とはなにかの説明ができるように理論や研究を調べる。 復習：「発達に伴う知能の変化」について授業内容を参考に概要をまとめる。 | |
| 第5回 | 発達に伴う記憶の変化：概説 | 予習：記憶のしくみについて解説できるようにしておく。 復習：「発達に伴う記憶の変化」について、授業内容を参考に概要をまとめる。 | |
| 第6回 | 成人期以降の記憶の変化：ケース例 | 予習：認知症のメンタルヘルスについて調べておく。 復習：「成人期以降の記憶の変化」のケース例について、どのような支援ができるのかを考える。 | B |
| 第7回 | 注意機能の生涯発達 | 予習： https://youtu.be/vJG698U2Mvo の選択的注意の動画を視聴する。 復習：「注意機能の生涯発達」について、授業内容を参考に概要をまとめる。 | |
| 第8回 | 言語の発達 | 予習：ことばの獲得プロセスを理解する。 復習「言語の発達」について、授業内容を参考に概要をまとめる。 | |
| 第9回 | 親子・家族関係の発達 | 予習：アタッチメントの発達のな影響について理解する。 復習：「親子・家族関係の発達」について、授業内容を参考に概要をまとめる。 | |
| 第10回 | 社会性と発達 | 予習：社会性・社会的スキルの定義を理解する。 復習：「社会性と発達」について、授業内容を参考に概要をまとめる。 | |
| 第11回 | 社会性の発達が阻害された事例 | 予習：社会性の発達が阻害されるライフイベントについて自分なりの考えをまとめる。 復習：授業で扱ったケース例のディスカッションをもとに、どのような支援ができるのかを考える。 | B |
| 第12回 | パーソナリティの発達の变化 | 予習：気質・性格・パーソナリティの定義を理解する。 復習：「パーソナリティの発達の变化」について、授業内容を参考に概要をまとめる。 | |
| 第13回 | 高齢者と生きがい：概説 | 予習：自尊心の高低が日常生活に及ぼす影響について考える。 復習：「高齢者と生きがい」について、授業内容を参考に概要をまとめる。 | |
| 第14回 | 高齢者と生きがい：ケース例 | 予習：高齢者の生きがいとなるライフイベントについて、考えをまとめる。 復習：授業で扱ったケース例のディスカッションをもとに、どのような支援ができるのかを考える。 | B |
| 第15回 | まとめ | 予習：これまでの講義内容を概観する。 復習：最終レポートにそなえ、本講義全体を通して自分が考えたことを整理する。 | |

犯罪心理学特論

更新日：2024/01/31 09:09:28

| | | | | | | | |
|---------------|--------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 前期 | 科目コード | 1B202000 | 授業コード | |
| 担当教員 | 廣井 いずみ | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0042 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | |

授業概要

| | |
|----|--|
| 内容 | 本授業では犯罪について、生物-心理-社会の観点から学ぶ。また犯罪者処遇をとおして、社会がどのように犯罪に対応しようとしているのか、課題が何であるのかを知る。被害者の抱える課題や防犯を通して、犯罪を身近に捉える。DVや児童虐待など、家庭における犯罪の特殊性について学ぶ。 |
| 方法 | スライドや動画による講義、ディスカッション、事例研究を取り入れて、犯罪理解を進める。 |

履修条件

履修する上の留意点

到達目標

| | |
|---|---|
| 1 | 犯罪理論を用いて、犯罪者の事例について説明することができる。 |
| 2 | 犯罪に対して社会はどのように対応すればよいのか、論じることができる。 |
| 3 | 被害者が被る被害について、身体的、精神的、心理的側面から説明することができる。 |
| 4 | 防犯の考え方について説明でき、具体的な方策を挙げることができる。 |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|------|----|
| 到達目標① | レポート | 40 |
| 到達目標② | レポート | 40 |
| 到達目標③ | レポート | 10 |
| 到達目標④ | レポート | 10 |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|----------------|-------|-------|
| 1 | 永山則夫 封印された鑑定記録 | 講談社文庫 | 堀川 恵子 |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-------------------------------|--------|----------|
| 1 | 犯罪心理学 犯罪の原因をどこに求めるのか | 培風館 | 大淵憲一 |
| 2 | ライブラリ 心理学の杜15 司法・犯罪心理学 | サイエンス社 | 森丈弓ほか（著） |
| 3 | 女子少年院の少女たち 「普通」に生きることがわからなかった | さくら舎 | 中村すえこ |

オープンな教育リソース

ノルウェー犯罪学の理論と実践

<https://www.ryukoku.ac.jp/nc/news/entry-2696.html>Microsoft PowerPoint - 0818 0824 H28 学校安全教室（防犯）<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/anzen/documents/anzenkyousitu.pdf>

学生へのメッセージ

課題に対するフィードバック

レポートについて授業時にフィードバックを行なう。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|------|----------------|-------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニング |
| | | | |

| | | | グの実施方法 |
|------|---|---|--------|
| 第1回 | オリエンテーション 犯罪心理学では何を学ぶのか 統計からみる犯罪 | 【予習】 シラバスで学習内容を確認する。 【復習】 本授業で、犯罪心理学のどのような点を深めたいのか、振り返る。 | |
| 第2回 | 犯罪理論 (1) ー社会・地域から犯罪を捉えるー 緊張理論 下位文化理論 | 【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 理論から日本の現状をとらえなおしてみる。 | A |
| 第3回 | 犯罪理論 (2) ー犯罪の生物学的要因, 犯罪と知能ー ロンブローゾの生来性犯罪者説 犯罪の生物学的要因 遺伝的要因 犯罪と知能 発達障害の論文から、障害と非行の関連について考え、討議する | 【予習】 授業資料に目を通す。 【復習】 授業時の討論からの気づきを記録する。 | B |
| 第4回 | 犯罪理論 (3) ー犯罪のパーソナリティ要因ー 犯罪とビッグファイブ 低自己統制と衝動性 負の情動性とストレス反応 刺激欲求特性 | 【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 関心を持った項目について、自身でさらに調べて知識を深める。 | A |
| 第5回 | 犯罪理論 (4) ー発達の視点 (1) ー ハーシーの社会的絆理論 ケンブリッジ非行発達研究 反社会性の形成因 | 【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 関心を持った項目について、自身でさらに調べて知識を深める。 | A |
| 第6回 | 犯罪理論 (5) ー発達の視点 (2) ー モフィットの犯罪発達理論 児童期の問題行動 学業成績と非行 仲間からの影響 | 【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 関心を持った項目について、自身でさらに調べて知識を深める。 | A |
| 第7回 | 永山則夫の生涯について (生育史前半) 生育史が犯罪傾向に及ぼした影響、社会は何ができるのか、討議する | 【予習】 関連する書籍に目を通す。 【復習】 授業時の討論からの気づきを記録する。 | B |
| 第8回 | 永山則夫の生涯について (生育史後半) 犯罪への傾斜、社会は何ができるのか、討議する | 【予習】 関連する書籍に目を通す。 【復習】 授業時の討論からの気づきを記録する。 | B |
| 第9回 | 盗みの理解と心理的援助 | 【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 関心を持った項目について、自身でさらに調べて知識を深める。 | |
| 第10回 | 施設処遇について考える ～ノルウェーでの処遇と日本の処遇から～ 刑事処遇のあり方について討議する。 | 【予習】 ニルス・クリスティの講演動画に目を通す。 【復習】 授業時の討論からの気づきを記録する。 | B |
| 第11回 | 被害者の理解と支援 | 【予習】 授業スライドを見ておく。 【復習】 関心を持った項目について、自身でさらに調べて知識を深める。 | |
| 第12回 | 安心・安全なまちづくり 防犯について何ができるのか、討議する | 【予習】 住んでいる町の犯罪リスクの高い場所をチェックする。 【復習】 授業時の討論からの気づきを記録する。 | B |
| 第13回 | 死刑制度について考える① ビデオ視聴 | 【予習】 死刑制度に関わる論文、データの収集 【復習】 ビデオを見た気づきを記録する。 | |
| 第14回 | 死刑制度について考える② ビデオを基に死刑制度について、討議する | 【予習】 討議の準備をする。 【復習】 授業時の討論からの気づきを記録する。 | B |
| 第15回 | 振り返り 各人のレポートを元に全体の振り返りを行なう。 | 【予習】 今までの授業を振り返り、テーマを決めレポート (1000字程度) にまとめる。 | B |

| | | |
|--|------------------------------|--|
| | 【復習】 他の受講生の意見を取り入れて、振り返る。 | |
|--|------------------------------|--|

キャリア心理学特論

更新日：2024/01/29 16:36:49

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|-----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 後期 | 科目コード | 1B202100 | 授業コード | |
| 担当教員 | 金井 篤子 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0043 | 授業形態 | 講義 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | |

授業概要

| | |
|----|--|
| 内容 | キャリアとは何か、人どのようにキャリアを伸ばすのかなど、特に組織内キャリアに焦点を当てつつ、関連するライフ・キャリアなど生涯にわたるキャリアについて心理学的知見を得る。 |
| 方法 | 講義を中心に行うが、参加者に発言を求めたり、グループでの討議を行ったりすることもある。 |

履修条件

特になし。

履修する上の留意点

特になし。

到達目標

| | |
|---|------------------------------------|
| 1 | 組織内キャリア、ライフ・キャリアについての心理学的知見が理解できる。 |
| 2 | キャリア研究について関心が持てる |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|-------------------|----|
| 到達目標① | リアクションペーパー、課題レポート | 60 |
| 到達目標② | リアクションペーパー、課題レポート | 40 |
| 到達目標③ | | |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|----------|-----|----|
| 1 | 資料を配布する。 | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-------------|-----|----|
| 1 | 授業中に適宜紹介する。 | | |

オープンな教育リソース

授業の中で適宜紹介する。

学生へのメッセージ

キャリアを学ぶことは自身が生きるといふことや他者を支援する際に重要な視点を提供すると思います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

課題に対するフィードバック

リアクションペーパーについては、次回の授業においてフィードバックします。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|-----|-------------------|---|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | キャリアとは。 | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第2回 | キャリア発達とは、キャリア発達理論 | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペ | A, B |

| | | | |
|------|-------------------|---|------|
| | | ーパーで提出してください。 | |
| 第3回 | キャリア初期の心理学 | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第4回 | キャリア中期の心理学 | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第5回 | キャリア後期の心理学 | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第6回 | キャリア・トランジション理論（1） | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第7回 | キャリア・トランジション理論（2） | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第8回 | キャリア選択理論（1） | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第9回 | キャリア選択理論（2） | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第10回 | キャリア選択理論（3） | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第11回 | キャリア構築理論 | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第12回 | キャリア・アンカー | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第13回 | キャリア・パースペクティブ | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第14回 | キャリア・ストレス | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| 第15回 | キャリア・カウンセリングとまとめ | 授業後に授業で考えたこと、疑問点などをリアクションペーパーで提出してください。 | A, B |
| | 最終レポート | | |

データサイエンス特論

更新日：2024/02/20 11:03:46

| | | | | | | | |
|---------------|-------|----------------|-------|---------------------|----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 後期 | 科目コード | 1B202200 | 授業コード | |
| 担当教員 | 姚 静雅 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 1年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 2 | |
| 科目ナンバー | M0044 | 授業形態 | 演習 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 選択必修 | | | 授業時間+自習時間 | 30+60 | | |

授業概要

| | |
|----|---|
| 内容 | IoTやAI、データサイエンスは第4次産業革命とも呼ばれる技術革新であり、社会を大きく変える可能性を秘めている。中でもデータサイエンスは、単なる情報解析ではなく、様々な社会問題の解決や、新しい価値の創造に資することが期待されている。本科目では、身の回りの課題解決をテーマとして、データサイエンスを実践的に身につける。授業内容は基本的に参加者と相談しながら進める。 |
| 方法 | 各回のテーマはパワーポイントを使って授業を行う。基本的に参加者と相談しながら進める。 |

履修条件

履修する上の留意点

毎回の授業で説明した課題（成果物）が提出されていない場合は減点します。

到達目標

| | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 社会におけるデータ・AI活用を理解し説明できる |
| 2 | データを正しく活用するための方法や留意点を理解し説明できる |
| 3 | データ処理や統計解析の基本を理解し説明できる |
| 4 | 日常生活でデータサイエンスの活用を考えることができる |

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|----------|----|
| 到達目標① | 受講態度、成果物 | 20 |
| 到達目標② | 受講態度、成果物 | 25 |
| 到達目標③ | 受講態度、成果物 | 25 |
| 到達目標④ | 受講態度、成果物 | 30 |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

教科書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|-----|-----|----|
| 1 | なし | | |

参考書

| | 書籍名 | 出版社 | 著者 |
|---|------------------|-----------|-----------------------------|
| 1 | データサイエンス講義 | オライリージャパン | Rachel Schutt, Cathy O'Neil |
| 2 | データサイエンスの基礎 | 講談社 | 浜田 悦生 |
| 3 | 絵と図でわかる データサイエンス | 技術評論社 | 上藤 一郎 |

オープンな教育リソース

リテラシーレベル教材（数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム）、東京大学 数理・情報教育研究センター、http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html

学生へのメッセージ

文理関係なくデータサイエンスに興味関心を持ち、自ら考えて実践できるようになるよう期待します。

課題に対するフィードバック

- ・自学自習課題について授業内で発表し、学生間や教員との情報や意見の交換をおこなう。
- ・疑問点があれば随時対応する。

授業計画

| 授業回 | 学修計画 | | |
|------|----------------------|---|------------------|
| | 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 第1回 | 健康社会におけるデータサイエンスの重要性 | 予習：シラバスを確認する 復習：データサイエンスの重要性を記録する | B |
| 第2回 | 身の回りの課題の発見 | 予習：問題と課題の違いを確認する 復習：発見した課題を精査する | B |
| 第3回 | 研究計画書① | 予習：勉強と研究の違いを確認する 復習：研究計画書（仮）を作成する | B |
| 第4回 | ビッグデータ | 予習：ビッグデータの利活用事例を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる | B |
| 第5回 | IoTとIoB | 予習：IoTやIoBの利活用事例を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる | B |
| 第6回 | AI | 予習：AIやディープラーニングの利活用事例を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる | B |
| 第7回 | 情報倫理、情報セキュリティ | 予習：情報倫理やセキュリティを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる | B |
| 第8回 | データを知る | 予習：量的データと質的データを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる | B |
| 第9回 | データを読む | 予習：集計データのグラフを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる | B |
| 第10回 | データを分類する | 予習：分類のための分析手法を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる | B |
| 第11回 | データから予測する | 予習：回帰分析を確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる | B |
| 第12回 | プログラミングのメリット | 予習：プログラミングを習得するメリットを確認する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる | B |
| 第13回 | 研究計画書② | 予習：研究計画書を仕上げる 復習：報告書（仮）を作成する | B |
| 第14回 | 課題演習と発表 | 予習：研究計画書からプレゼン資料を作成する 復習：要点や気づきを研究計画書に反映させる | B |
| 第15回 | フィードバックとまとめ | 予習：提出した成果物を確認する 復習：提出した成果物を確認する | B |

研究指導

更新日：2024/02/22 20:02:26

| | | | | | | | |
|---------------|--|----------------|-------|---------------------|-----------|-------|--|
| 開講年度 | 2024 | 学期 | 通年 | 科目コード | 1C100200 | 授業コード | |
| 担当教員 | 松原達昭、今澤正彦、長岡由紀子（研究指導補助教員：山根 基、廣井いずみ、高瀬慎二、土屋満知） | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 配当 | 学部/学科 | 大学院 愛知みずほ大学大学院 | | | | | |
| | 配当時期 | 2年 | 曜日/時限 | — | 単位 | 4 | |
| 科目ナンバー | M0029 | 授業形態 | 演習 | 実務経験のある教員による授業科目の配置 | | | |
| コース別 必修・選択必修等 | 必修 | | | | 授業時間+自習時間 | 180 | |

概要

研究課題の遂行、および修士論文をまとめるために個別指導を行う。一連のプロセスを通して研究能力を修得する。

指導担当分野

指導方法

必要に応じて、適宜個別指導を行う。

指導を受けたい学生への期待

自ら積極的に取り組み、計画的に研究を実施し、修士論文を作成する。

学修内容

| 学修計画 | | |
|--|--|------------------|
| 学修内容 | 学修課題（予習・復習）の内容 | アクティブ・ラーニングの実施方法 |
| 研究の進行状況にあわせて、指導教員が適宜個別指導を行う。 研究計画に基づいてデータの収集と分析を行う。 5月: 学位論文題目届を提出する。 7月: 研究発表会（中間発表）を行う。 12月: 学位論文を提出する。 1月: 学位論文口述審査を受ける。 | 随時、指導教員と連絡をとりながら、研究を進行させる。 データを収集するとともに、データの解析方法を学ぶ。 学位論文の題目を考える。 中間発表に備えて、準備する。 論文を記述し、学位論文としてまとめる。 学位論文口述審査に備えて、準備する。 | |

到達目標

| | |
|---|---------------------------|
| 1 | 研究成果をまとめた修士論文の提出、発表等ができる。 |
|---|---------------------------|

評価方法

| | 評価方法 | 割合 |
|-------|------------|----|
| 到達目標① | 提出された修士論文 | 80 |
| 到達目標② | 口述審査における発表 | 20 |
| 到達目標③ | | |
| 到達目標④ | | |
| 到達目標⑤ | | |
| 到達目標⑥ | | |

課題に対するフィードバック

個人指導により、適宜フィードバックを行う。

研究倫理教育（推奨）

| |
|---|
| 卒業論文を履修する者は、以下の受講を推奨します。 |
| 独立行政法人日本学術振興会 研究倫理e-ラーニング |
| https://www.netlearning.co.jp/clients/jsps/reference.aspx |